

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護の基本VI Fundamentals of Care VI		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の2年生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
新井文子	福祉棟2階	初回授業にて説明する。		授業中に指示します
授業の概要				
リスクマネジメントの意義と必要性を学び、日常生活に潜むリスクを通して介護サービスにおけるリスクマネジメントを理解する。また、危険予知訓練（KYT）を通して、気付きの重要性を学ぶ。そして、利用者の事故防止と安全対策について、感染予防を含めて学ぶ。さらに、介護従事者の心身両面の健康管理と安全な介護サービスとの関連を理解する。				
授業の目標				
①リスクマネジメントの意義と必要性を説明できるようにする。 ②介護におけるリスクマネジメントの必要性がわかり、事故防止と安全対策について説明できるようにする。 ③危険予知訓練（KYT）により、気付きの重要性を述べるようにすることができるようにする。 ④感染の予防と方法を説明できるようにする。 ⑤介護従事者に係る各法規を知り、健康管理につなげることができるようにする。				
授業の方法				
講義中心であるが、危険予知訓練および生活リスクについては、演習（個人ワーク・グループワーク・発表）を取り入れる。				
学習の成果（学習成果）				
①介護におけるリスクマネジメントの導入背景を知り、その必要性を説明することができる。 ②危険予知訓練により、気付きの重要性が説明でき、介護事故の予防対策とつなげることができる。 ③感染予防および介護従事者の健康管理について説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって） リスクマネジメントとは何か			
第2回目	リスクマネジメントの歴史、リスクの分類（企業リスクをもとに介護リスクにつなげる）			
第3回目	介護現場とリスクマネジメントの必要性 介護保険制度との関わり			
第4回目	介護リスクマネジメント① 介護の特性と介護事故			
第5回目	介護リスクマネジメント② 介護の質とクォリティインプループメント（QI）			
第6回目	介護リスクマネジメント③ 基本的な視点、リスクマネジメントの進め方			

第7回目	介護現場におけるリスクマネジメント① 危険予知訓練の意義と方法、介護場面における危険予知訓練 個人ワーク
第8回目	介護現場におけるリスクマネジメント② 介護場面における危険予知訓練 グループワーク
第9回目	介護現場におけるリスクマネジメント③ 介護場面における危険予知訓練 発表、まとめ (レポート1 提出：発表後)
第10回目	介護現場におけるリスクマネジメント④ ヒヤリハット事例、記録の書き方、生活リスクとマネジメントの課題提示
第11回目	生活リスクとマネジメント① 日常生活におけるリスクマネジメント 課題をもとにしたグループワーク 試験レポート課題提示
第12回目	生活リスクとマネジメント② 日常生活におけるリスクマネジメント 発表、まとめ (レポート2 提出：発表後)
第13回目	感染予防 感染予防の基礎知識、感染予防管理、衛生管理等
第14回目	介護従事者の安全 心身の健康管理、関連法規
第15回目	人的リスクとリスクマネジメント、まとめ (試験レポート提出日)

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	配布資料に必要事項を記入している。個人ワークを適切におこなったうえでグループワークに参加し、積極的に意見を述べている。
レポート	20%	1：危険予知訓練 (KYT) S：4つのステップにそって適切にまとめられている。 2：生活リスク S：日常生活上のリスクを具体的に捉え、対策を立てている。
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	授業の内容を中心に、利用者の安全に対する自己の捉え方に関するレポート形式である。課題は提出日の約1か月前に提示する。第15回に提出。S：提示された項目に対してまとめ、自己の捉え方を明確に記述している。
発表内容 (態度含む)	10%	発表原稿を作成し、発表の練習をしている。
その他		

教科書と参考図書

教科書	新・介護福祉士養成講座 4 第3版 「介護の基本Ⅱ」 中央法規出版
-----	-----------------------------------

履修上の留意点・ルール

利用者の生活の場と自分の日常生活とを対比させ、意識しながら考えていくようにしてほしい。
